

1 新型コロナウイルス感染症の感染経路

- (1) 飛沫感染（目、鼻、口の粘膜への飛沫の付着）
- (2) 接触感染（ウイルスが付着した手指による目、鼻、口の粘膜への接触）
- (3) エアロゾル感染（微小飛沫又はエアロゾルの吸入）

2 基本的な感染対策の考え方

日常的に「標準予防策（スタンダード・プリコーション）」を徹底することが重要です。

予測される汚染度に応じて、適切な防護具をあらかじめ着用するようにして、職員自らが感染しないための対策と感染を広げないための対策を行います。

【標準予防策（スタンダード・プリコーション）とは】

感染症の有無にかかわらず、すべての人に対して、血液、体液、汗を除く分泌物、排泄物、損傷した皮膚、粘膜等の湿性生体物質は、感染の可能性があるとしてみなして対応する方法のこと。

3 日常の感染対策

(1) 感染が広がりにくい環境づくり

- ア 職員に体調の変化がみられたら勤務を控え受診を促す。
- イ ケアごとの手洗い、十分な手指消毒を徹底する。手袋は利用者ごとに交換する。
利用者も手洗い、手指消毒を行う。
- ウ 送迎車内や共同生活室、機能訓練室、食堂など利用者が集まる場所の換気を励行する。

(2) 感染症発生に備えた準備

- ア 抗原定性検査キットの準備（薬事承認を受けたもの）
- イ 個人防護具の備蓄
手袋、フェイスシールド、ガウン、N95 マスクなど感染者への対応を想定した物品の準備
- ウ 感染者のコホーティング・ゾーニングの想定、個人防護具の着脱訓練の実施
感染した入所者が使用する居室のエリア分け、職員の動線、使用した防護具の廃棄場所等を想定

4 感染者発生時の対応

(1) 職員自身の感染予防

- ア 感染者（疑いを含む）への対応時
 - ・サージカルマスク、フェイスシールド等により目、鼻、口を覆う。
 - ・ケア時は手袋を着用する。身体密着が想定される場合はガウンやエプロンを着用する。
（口腔ケア、喀痰吸引などのエアロゾルが発生するケアの場合は N95 マスクを推奨）
- イ 着用中又は脱衣時は、目、鼻、口に触れないように注意する。
- ウ ケアごとの手洗い、手指消毒を徹底する。

(2) 感染を広げないケアを考える

- ア コホーティング・ゾーニングを行い、感染者の対応をする職員を固定し、他の職員と休憩室、更衣室等を分けて、動線が交わらないようにする。
- イ 感染者（疑いを含む）のケアで着用した個人防護具は、原則利用者ごとに交換する。
- ウ 清潔区域に入る前に個人防護具を脱衣し、速やかに感染性廃棄物処理の箱に捨てる。